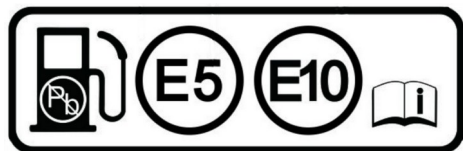


SANYANG MOTOR CO.,LTD.
3 CHUNG HUA ROAD HUKOU HSINCHU TAIWAN,P.R.C.
[TEL:886-3-598-1911](tel:886-3-598-1911) FAX:886-3-598-1844
E-mail:SERVICE@sym.com.tw
<http://www.sym.com.tw>



オーナーズマニュアル



ADX250 (TEA25T1CN-EU)

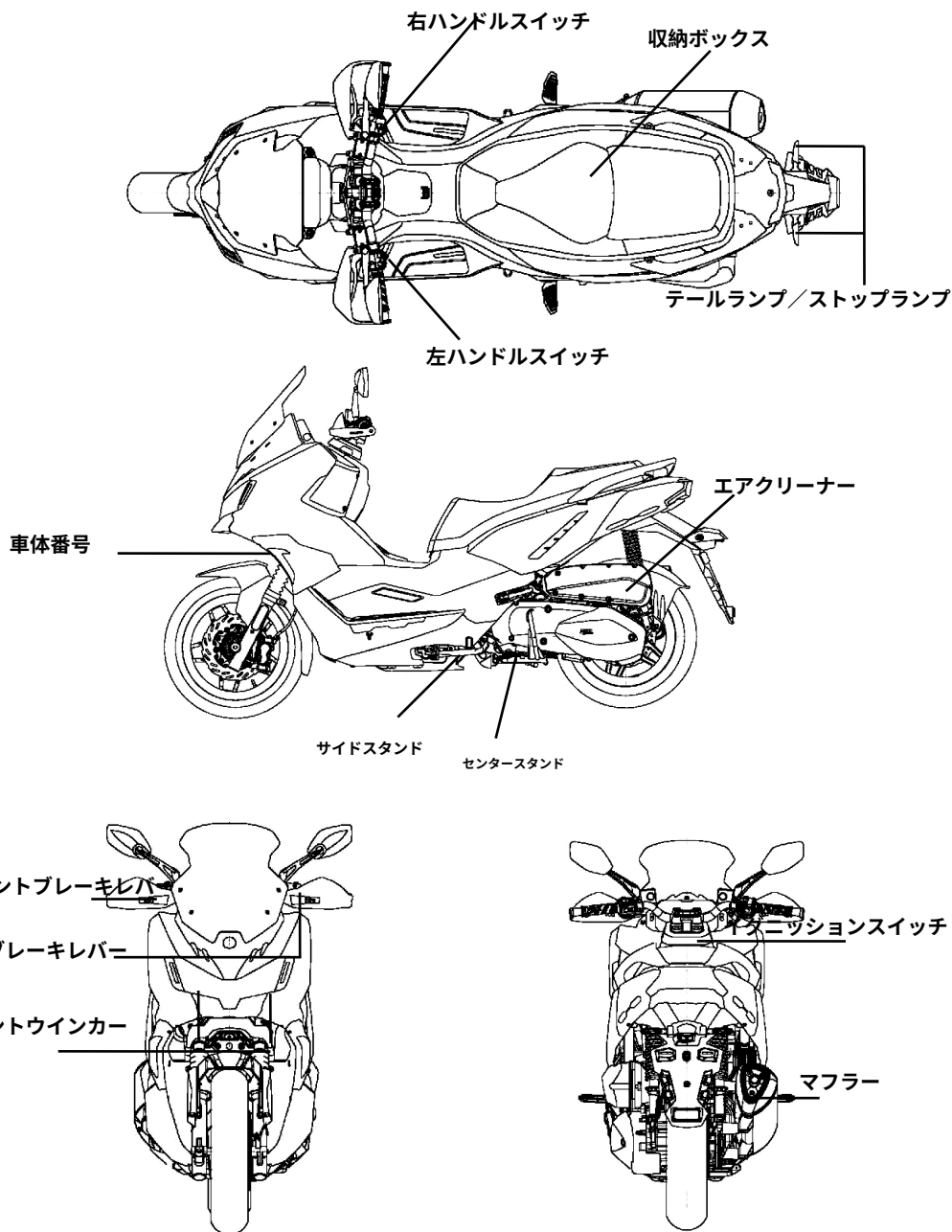


1.目次

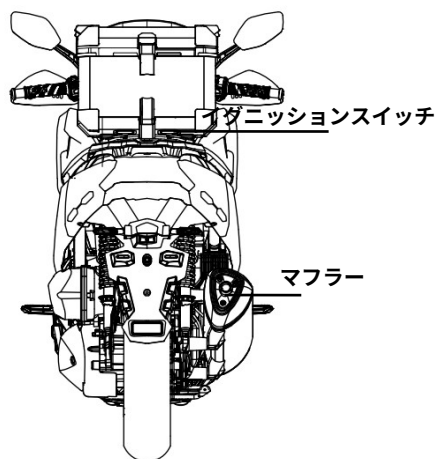
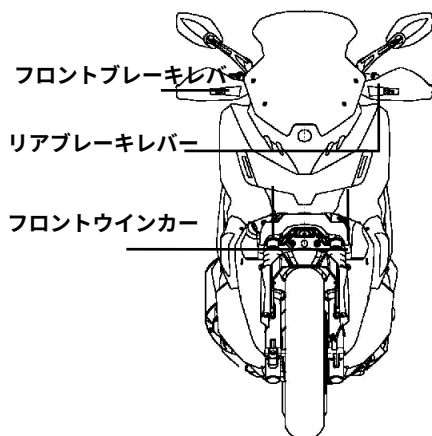
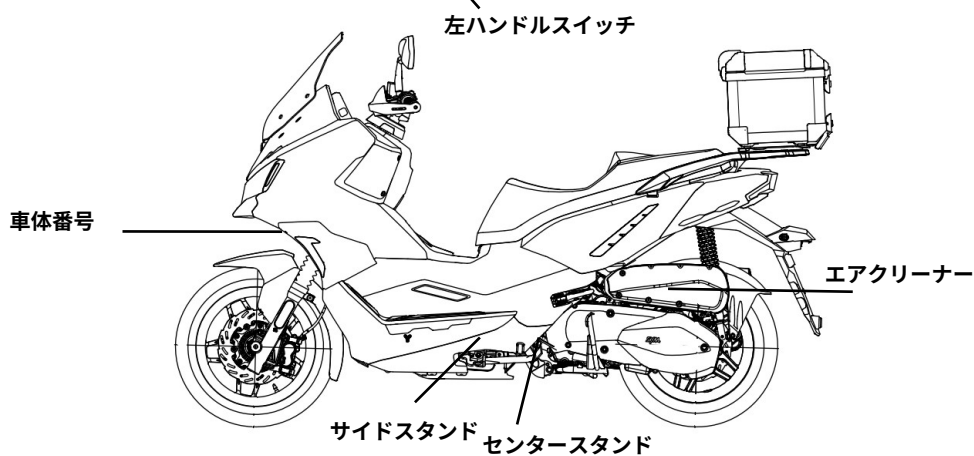
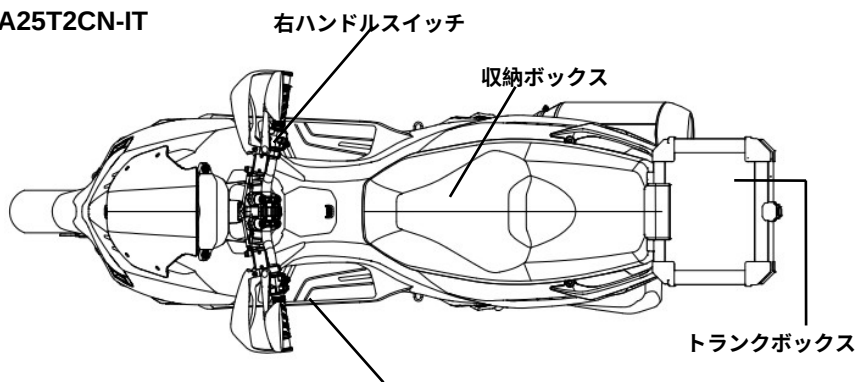
1.目次.....	1
2.各部の名称.....	3
3.走行前に.....	5
4.安全運転.....	5
5.運転.....	6
6.純正部品の使用.....	6
7.各部の使用法.....	7
メーター.....	7
アプリインターフェース.....	9
アカウントのログインと登録.....	9
車両の登録（バインド）.....	10
Bluetooth 接続.....	12
着信・通知アラート.....	13
Google 画面ミラーリングナビゲーション.....	14
ドライブレコーダー.....	14
パーソナルセンター.....	17
イグニッションスイッチの操作.....	19
盗難防止インテリジェントロックの説明（インテリジェントロック搭載モデル用）.....	19
各ボタンの使用法.....	22
収納ボックス.....	23
ヘルメットフック.....	24
ブレーキ.....	24
8.エンジン始動時の要点と注意事項.....	25
9.上手な発進方法.....	26
スロットルグリップの操作.....	26
駐車方法.....	26
10.走行前点検・整備.....	27
日常点検.....	27
エンジンオイルの点検と交換.....	27
燃料の点検.....	28
トランスミッションオイルの点検と交換.....	28
ブレーキ遊びの点検と調整.....	30
ディスクブレーキの点検（車種による）.....	30
スロットルグリップの遊び調整.....	32
バッテリーの点検・整備.....	32
タイヤの点検.....	33
ハンドルおよびフロントショックアブソーバーの点検.....	33
ヒューズの点検と交換.....	34
ウインカーとホーンの点検.....	34

前後灯火類の点検.....	34
ブレーキランプの点検.....	34
燃料漏れの点検.....	35
車体各部の給油（潤滑）状態の点検.....	35
スパークプラグの点検.....	35
エアクリーナーの点検.....	35
11.異常や不具合が発生したとき.....	36
エンジンが始動しないときの診断.....	36
12.エンジン用燃料に関する注意事項.....	36
13.トランスミッションオイル.....	36
14. スクーターのお手入れ.....	37
洗車.....	37
保管.....	37
15. アンチロックブレーキシステム.....	38
TCS システム.....	38
16. 冷却システムの点検.....	39
17.定期整備スケジュール.....	40
18.諸元.....	42

2.各部の名称



モデル: TEA25T2CN-IT



3. 走行前に

本書では、安全な運転方法や簡単な点検方法など、本車両の正しい使用方法について説明しています。より快適で安全な走行のため、本書をよくお読みください。

お客様のために、SYM 正規販売店にて取扱説明書をお受け取りいただき、以下の内容をよくお読みください。

- 車両の正しい使用方法。
- 納車前点検・整備について。

この度はお買い上げいただき誠にありがとうございます

車両の性能を最大限に発揮させるため、定期点検・整備を確実に実施してください。

新車ご購入後、最初の 1000km 走行時に正規販売店にて初回点検を受けられることをお勧めします。その後は 1000km ごとに定期点検を受けてください。

- 車両の仕様・構造が変更され、取扱説明書やカタログに掲載の写真・図と異なる場合は、実際の車両の仕様・構造が優先されるものとします。

4. 安全運転

運転の際はリラックスし、適切な服装を着用することが重要です。交通規則を守り、あせらず、常に注意深く落ち着いて運転してください。

通常、購入したばかりの車両は慎重に運転する方がほとんどですが、車両に慣れてくると運転が無謀になりがちで、事故につながるおそれがあります。

□ 次の点にご注意ください。

- 運転の際は必ずヘルメットを着用し、あごひもを確実に締めてください。
- 袖口が開いていたりゆるんでいたりする服は、風にあおられて袖口がハンドルバーに巻き込まれるおそれがあり、走行の安全性に影響します。
- そのため、袖口の締まった服を着用してください。
- 運転中はハンドルバーを両手でしっかりと握ってください。片手での運転は絶対にしないでください。
- 制限速度を守ってください。
- 適切なローヒールの靴を着用してください。
- **スケジュールに従って定期整備・点検を実施してください。**

⚠ 警告！！

- 同乗者が排気管でやけどをしないよう、同乗者が必ずステップに足を乗せていることを確認してください。
- 走行後は排気管が非常に高温になっています。点検や整備を行う際は、やけどをしないよう注意してください。
- 走行後は排気管が非常に高温になっています。他人が排気管でやけどをしないよう、駐車する場所を適切に選んでください。

⚠ 注意：

車両を改造すると、構造や性能に影響を及ぼし、エンジンの調子不良や排気音の悪化を招き、車両の寿命を縮めることになります。

また、改造は法律に違反する行為であり、本来の設計・仕様に適合しなくなります。

改造した車両は保証の対象外となりますので、無断で車両を改造しないでください。

5. 走行

- 腕、手のひら、腰、つま先など、身体各部の力を抜き、必要ときにすばやく反応できるよう、最も楽な姿勢で走行してください。
- ライダーの姿勢は走行の安全性に大きく影響します。常に体の重心をシートの中央に置いてください。重心がシートの後方に偏ると前輪への荷重が減り、ハンドルのふらつきの原因となります。ハンドルが不安定な状態での走行は危険です。
- 旋回時にライダーが体を内側に傾けると、より楽に旋回できます。逆に、体と車両が傾かないと不安定に感じます。
- 凹凸のある未舗装路や不整地では車両の操作が難しくなります。あらかじめ路面状況を把握し、速度を落として、肩の力を使ってハンドルを操作してください。
- 推奨事項：走行の安全性やハンドル操作に影響を与えないよう、フロントのステップに不必要な荷物を積まないでください。

注意：

荷物を積んでいる場合と積んでいない場合とでは、ハンドルの感触がわずかに異なります。積載量が多すぎると、ハンドルが振れて走行の安全性に影響を及ぼすことがあります。したがって、車両に荷物を積みすぎないでください。

注意：

- ボディサイドカバーとエンジンの間に、ウエスなどの可燃物を置かないでください。火災により部品が損傷するおそれがあります。
- 破損を防ぐため、積載場所として指定されていない箇所に荷物を積まないでください。

推奨事項

車両の性能を最大限に引き出し、使用寿命を延ばすために：

最初の1か月間、または最初の は、エンジンおよび各部品のならし運転期間です。1000km

6. 純正部品の使用

車両の最良の性能を維持するためには、各部品の品質、材質、加工精度が設計要件に適合している必要があります。「SYM 純正部品」は、オリジナル車両に使用されているものと同じ高品質な材料で作られています。設計仕様を満たすため、高度なエンジニアリングと厳格な品質管理を経るまで、いかなる部品も市場に出回ることはありません。したがって、部品を交換する際は、必ず「SYM 正規販売店」で「SYM 純正部品」をお買い求めください。市場で安価な模造部品を購入した場合、品質や耐久性についていかなる保証も受けられません。また、予期しないトラブルが発生し、車両の性能低下を招くおそれがあります。

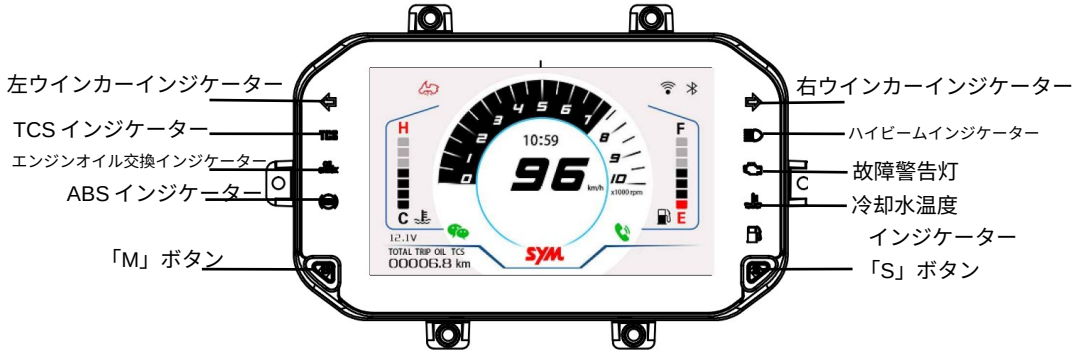
- 車両本来の性能を保ち、長くご使用いただくために、必ず SYM 純正部品をお使いください。

7. 各部の名称と機能

(以下はSYM4 ストロークスクーターの基本的な操作について説明したものであり、モデルによって異なる場合があります。詳細は本書の巻末をご参照ください。)

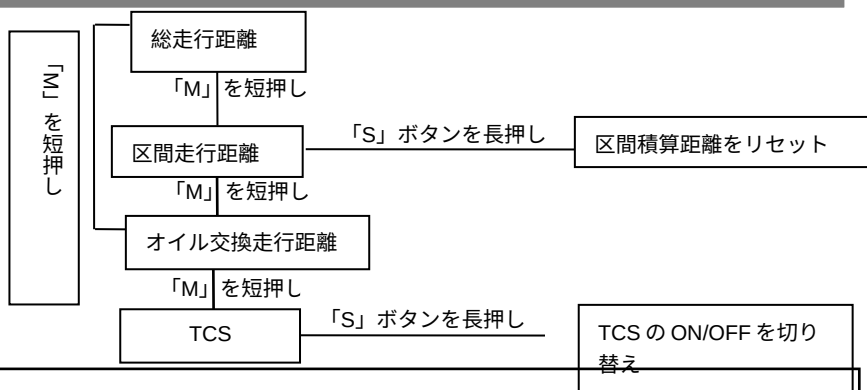
メーター

スピードメーターパネルの図はモデルによって異なる場合がありますが、配置は通常同じです。



- **スピードメーター：**
走行速度を示します。
- **オドメーター：**
総走行距離を示します。
- **ハイビームインジケーター：**
ハイビームヘッドライトを点灯すると、このインジケーターが点灯します。
- **(左右) ウインカーインジケーター：**
ウインカースイッチを操作した方向に応じて、左右いずれかのインジケーターが点滅します。
- **ABS インジケーターランプ：**
ABS (アンチロックブレーキシステム) インジケーターランプは、イグニッションスイッチをオンにすると点灯し、スクーターが走行を開始すると間もなく消灯します。ABS が正常であれば消灯したままです。ABS に異常がある場合はインジケーターが点灯したままになります。インジケーターランプが点灯している間はABS は作動しませんが、ABS が故障しても通常のブレーキシステムは正常に機能します。
- **故障警告灯：**
ECU に異常がある場合、警告灯が常時点灯します。
- **冷却水温度インジケーター：**
エンジン冷却水温度を示します。冷却水温度インジケーターが点灯した場合は、冷却水量が十分か、およびファンモーターが作動しているかを確認してください。

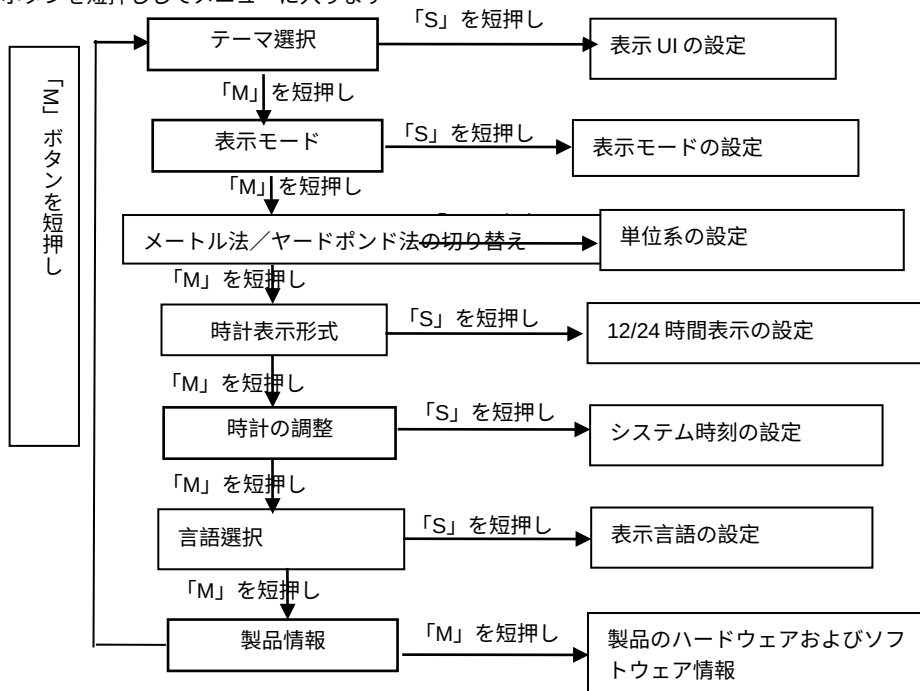
ボタン操作説明：(特に指定のない限り、2 秒間長押ししてください)



注記:

1. オイル交換走行距離が1000km以上になると、OIL CHECK インジケーターが点灯します。
2. OIL CHECK が点灯している場合は、オイル走行距離モードでSETを長押しすると、オイル交換走行距離がリセットされ、OIL CHECK ランプが消灯します。

「S」ボタンを短押ししてメニューに入ります。



画面キャストナビゲーション:

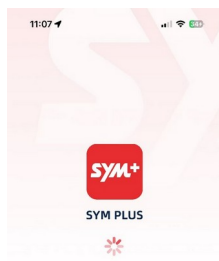
簡易ナビゲーション使用時にWi-Fiが接続されている場合、「M」ボタンを長押しするとフルスクリーンナビゲーション画面に入ります。

・ 昼間モード画面キャストナビゲーション

夜間モード画面キャストナビゲーション



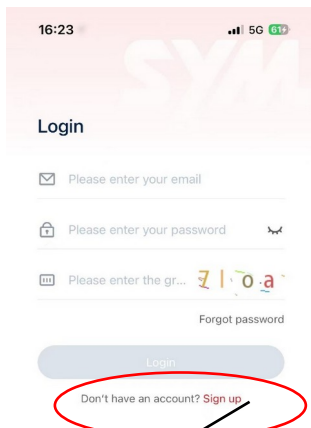
1. アプリの画面:



アプリをダウンロードするには、お使いのモバイル端末のアプリストアで「SYM+」を検索してください。

本アプリは不定期にアップデートされます。機能やインターフェースのレイアウトなどは、時間の経過とともに変更される場合があります。常に最新バージョンにアップデートしてご使用ください。最新バージョンが以前のすべてのバージョンに優先されます。

2. アカウントのログインと登録:



Registration

Registration

Please enter your email

Please set a password

Please confirm your password...

Password must be 8-16 characters, including uppercase, lowercase, and numbers.

Registration

有効かつ現在使用しているメールアドレスであれば問題ありません。

パスワードを設定する際は、大文字・小文字・数字を含める必要があります。
△ パスワードは必ず控えて忘れないようにしてください。本APPの初期リリースでは、現在パスワードの再発行(リカバリー)には対応しておりません。

初めてご利用の方は、こちらをクリックしてアカウントを登録してください

I agree and obey (User service agreement)&(Privacy agreement)

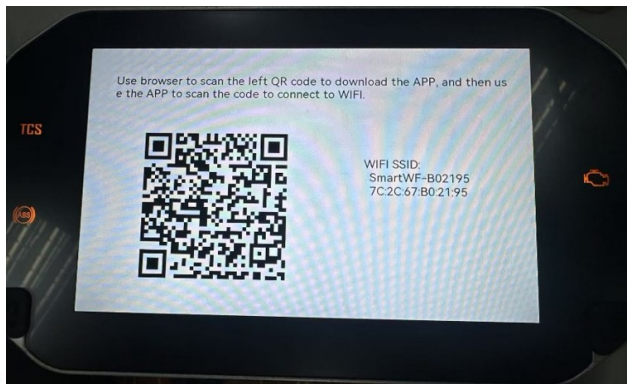
チェックボックスにチェックを入れて利用規約に同意し、アカウントを登録してください

注記:同一アカウントは複数人で共有できますが、複数のデバイスで同時に使用することはできません」

3. 車両のバインド(1)



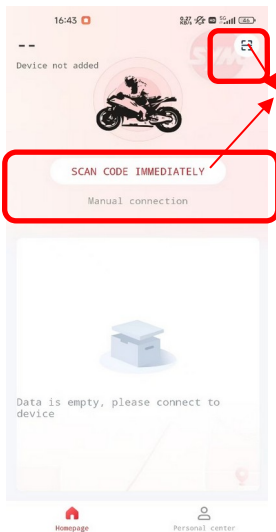
「S」ボタンを押してメニューを表示します。
「M」ボタンを押して「接続設定」を選択し、「S」ボタンを押して確定します。
「WIFI 接続」を選択すると、デバイスの QR コードが表示されます。



3. 車両のバインド(2)

スマートフォンの Wi-Fi と Bluetooth が有効になっていることを確認してください。





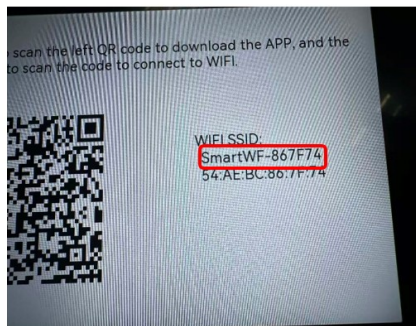
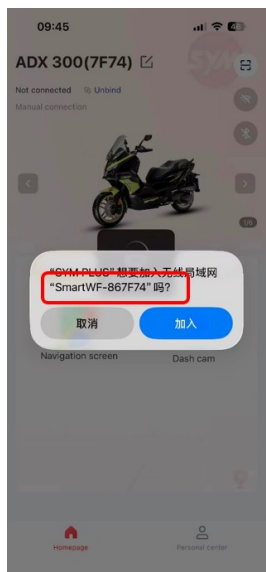
初回登録時は、「今すぐスキャン」またはスキャンアイコンをクリックし、メーターパネルのQRコードを読み取ってデバイスをバインドしてください。



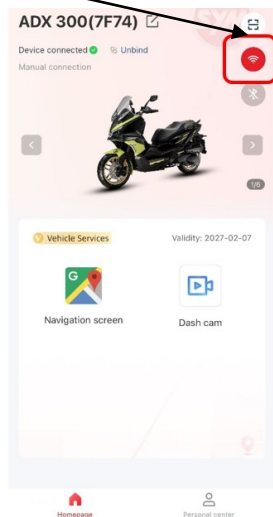
車両モデルを選択し、確定して追加します

3. 車両のバインド(3)

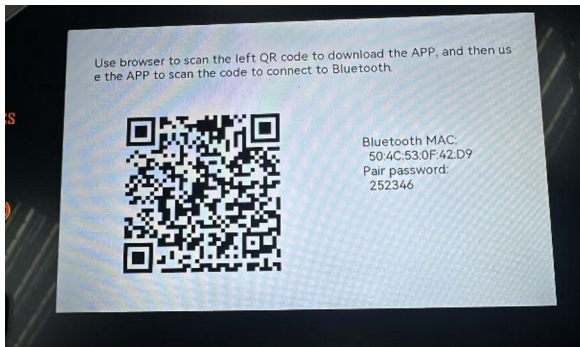
Wi-Fiが接続されると、アイコンが赤く点灯します。



Wi-Fi 情報がメーターのものと一致していることを確認し、メーターの Wi-Fi への接続に同意してください。

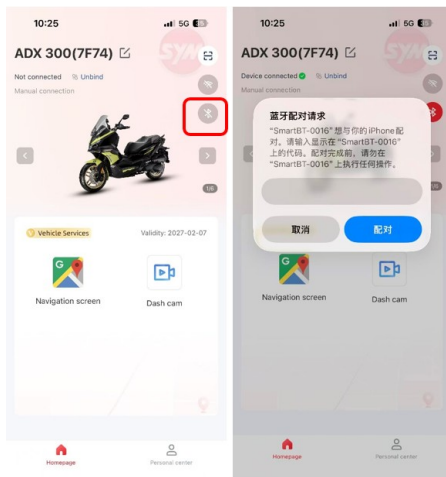


4. Bluetooth 接続(1)

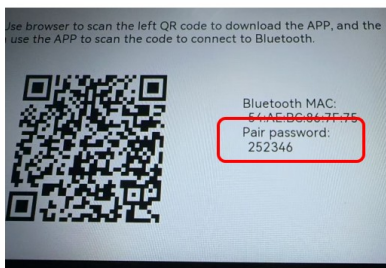


メーターの Bluetooth をオンにします

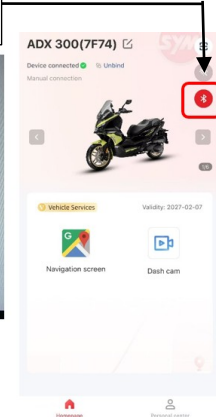
4. Bluetooth 接続(2)



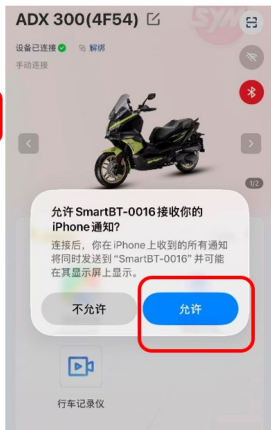
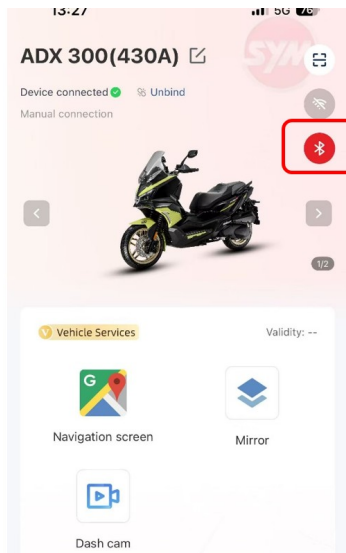
Bluetooth が接続されると、アイコンが赤色で表示されます。



初回の Bluetooth バインド: APP 内の Bluetooth アイコンをタップし、メーターパネルの Bluetooth 用 QR コードを読み取り、ペアリングパスワードを入力して Bluetooth のバインドを完了します。



5. 着信・通知アラート



スマートフォンをBluetoothで接続したままにすると、メーターで着信やメッセージの通知を受け取ることができます。

(対応アプリ・サービス: 電話の着信、SMS、WeChat、LINE、QQ、WhatsApp)

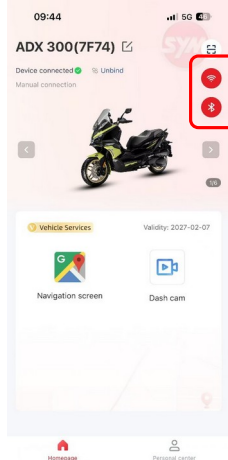
注記: Bluetoothを初めてペアリングする際は、通知へのアクセスを許可する必要があります。許可しない場合、メーターはいかなる通知も受信できません。

△警告: 走行中に長時間メーター画面を注視しないでください。運転の安全を損なうおそれがあります。

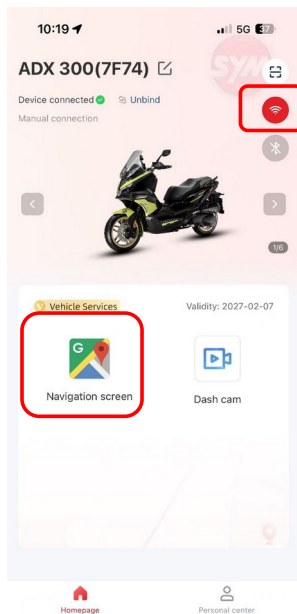
初回のBluetoothおよびWi-Fi接続後は、再接続の際にQRコードを読み取る必要はありません。

車両がKEY ON状態のときにAPPを起動すると、BluetoothとWi-Fiが自動的に接続されます。

(要件: スマートフォンのWi-FiとBluetoothがオンになっており、他のデバイスが車両に接続されていないことを確認してください。)



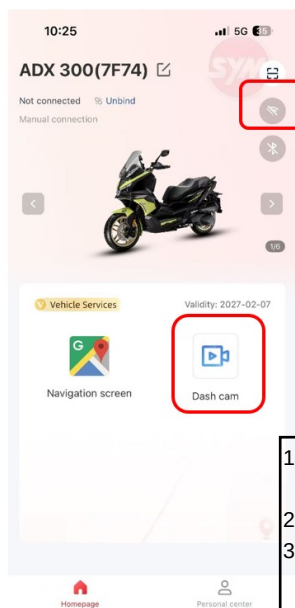
6. Google ナビゲーションの画面キャスト



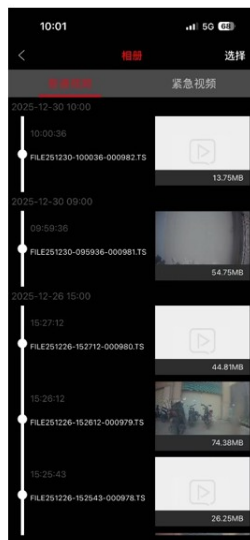
Wi-Fi 接続を維持したまま、ナビ画面のミラーリング機能を開き、入力欄をタップして目的地を選択し、ナビゲーションを開始します。



7. ドライブレコーダー:



1. ドライブレコーダーを使用するには、まず SYM+アプリの Wi-Fi をオフにする必要があります。
2. 車両を KEY ON(イグニッションオン)状態に保ちます。
3. スマートフォンのシステム Wi-Fi をオンにし、「mt***-*****」という名前のネットワークを見つけて接続します。ペアリングパスワードは「12345678」です。



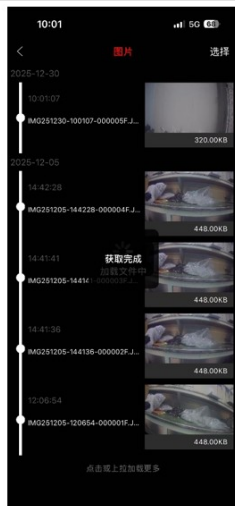
4. システム Wi-Fi に接続したら、「SYM+」APP を開いてドライブレコーダーのページに入り、「接続」ボタンをタップしてドライブレコーダーと連携します。

(ドライブレコーダーはシステム言語に応じて自動的に中国語と英語を切り替えます。)

5. 「録画開始」または「録画停止」をタップして、今回の起動中における録画機能のオン・オフを切り替えます。

6. 「ドライブレコーダー動画」をタップして、過去に録画した映像を確認します。

(マイクロ SD カードの容量には限りがあるため、ドライブレコーダーが連続して保存できる映像は約 8 時間分です。それを超えると古い映像から順に上書きされます。映像を取得する必要がある場合は、できるだけ早くエクスポートしてください。)



7. カメラアイコンをタップして、現在の前方視界の写真を撮影します。

8. 「ドライブレコーダー写真」をタップして、これまでに撮影した写真を確認します。

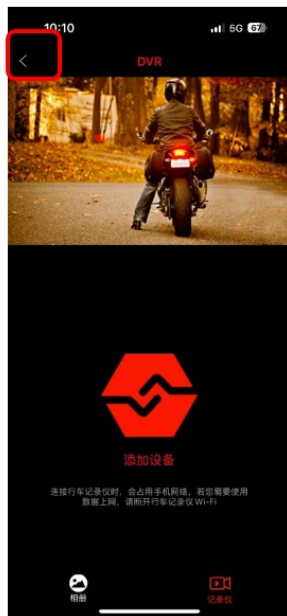


9. 全画面ボタンをタップして、全画面表示を切り替えます。



10. 「設定」ボタンをタップして設定画面に入り、以下のようなドライブレコーダーの機能を設定します。

- ドライブレコーダーのパスワードの変更
- 音声同時録音のオン/オフ
- ループ録画時間の設定
- その他



11. 「切断」ボタンをタップし、続けて「確定」をタップしてドライブレコーダー機能を終了します。「戻る」をタップするとアプリのメイン画面に戻ります。

12. ナビ画面のミラーリング機能を再度使用するには、Wi-Fi アイコンをタップしてメーターパネルの Wi-Fi に再接続する必要があります。

注記:

1. 車両のイグニッションをオンにするたびに、ドライブレコーダーは既定で録画を開始します。アプリの設定から、今回の起動中の録画をオフにすることができます。
2. 走行中にドライブレコーダーの映像を視聴しないでください。走行の安全性を著しく損なうおそれがあります。
3. プライバシー保護: ドライブレコーダーを使用する際は、現地の法令を遵守し、他人のプライバシーを撮影しないようにしてください。第三者が映っている映像を、事前の同意なく公開の場にアップロードしたり、商業目的で使用したりすることは固く禁止します。これは他人または第三者の権利を侵害する行為となります。

8. マイページ





メッセージ通知(対応している場合):

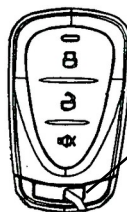
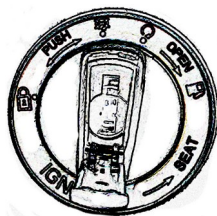
1. SMS、電話の着信、WhatsApp など
2. 新しいメッセージを受信すると、アプリのアイコンが5秒間点滅し、メッセージが5秒間表示されます(スマートフォン側でメッセージ表示の許可を与えている必要があります)。
3. 各アイコンは表示されてから15分後に自動的に消去されます。
4. アイコンが表示されている間は、いずれかのボタンを短く押すことで手動で消去できます。

⚠️注意:

1. 走行中に通知情報を長時間見続けることは固く禁止します。(走行の安全性を著しく損ないます。)
2. 電話に応答する際は、安全な場所に停車してから行ってください。

S イグニッションスイッチの操作S

イグニッションスイッチ



スマートキー(スイッチを押してからキーを抜いてください)

1. 盗難防止アラームの設定(イグニッションスイッチ OFF 時):

音・光による警報:リモコンの「B」ボタンを1回短く押します。ホーンが1回鳴り(ピー)、ロックがかかり、3秒後にシステムは音・光による警報モードに入ります。

サイレントアラーム:リモコンの「X」ボタンを1回短く押します。ホーンが1回鳴り(ピー)、ロックがかかり、3秒後にシステムはサイレントアラームモードに入ります。

2. 盗難防止アラームの解除と自動再設定

アラームが作動中の状態で、リモコンの「a」ボタンを押します。ホーンが2回鳴り(ピッピッ)、ロックが解除され、アラームが解除されます。

20秒以内に ACC がオンにならない場合、アラームシステムはこれを誤操作による解除と判断し、自動的に元の警戒状態に戻ります。

注記: a ボタンを2秒以内に2回連続で押すと、システムは完全に解除され、自動的に再設定されることはありません。

3. ON から OFF への切り替え時の自動ロック

システムが解除された状態で車両を停止し、イグニッションをオフにする(メインスイッチを閉じる)と、20秒後に自動的にロックがかかり、システムはサイレントアラームモードに入ります。

4. LOCK 位置での自動ロック

システムが解除された状態で、イグニッションスイッチを OFF 位置から LOCK 位置に回します。1秒後に自動的にロックがかかり、3秒後にシステムはサイレントアラームモードに入ります。

LOCK 位置(施錠状態)にあるとき、リモコンの解除ボタンを1回押します。15秒以内に LOCK 位置から離脱しない場合、システムは自動的に元の警戒状態(音・光アラームモードまたはサイレントアラームモード)に戻ります。

LOCK 位置にあるとき、「解除」ボタンを2秒以内に2回連続で押しても、システムは完全には解除されず、自動的に元の警戒状態(音・光アラームモードまたはサイレントアラームモード)に戻ります。解除状態で LOCK 位置から OFF 位置に切り替えと、システムは15秒後に自動的にロックがかかり、サイレントアラームモードに入ります。「解除」ボタンを2秒以内に2回連続で押すと、システムは完全に解除され、自動的に再設定されることはありません。

5. 不正操作に対するソレノイドバルブ保護機能

ソレノイドバルブが10秒以内に10回操作された場合(10回目の操作で強制的にロックがかかり、サイレントアラームモードに入ります)、システムはこれを不正操作と認識し、保護機能を作動させます。

(これは、単独の警戒/解除操作を10回連続で行った場合、または警戒/解除の全サイクルを5回行った場合に該当します。)

保護モード中は、本体はリモコンに対して通常どおり応答しますが、ロックのソレノイドバルブは反応しません(作動しません)。システムは15秒後に自動的に保護モードを解除し、通常動作に戻ります。

6. アラームの一時停止

車両が振動検知によるアラームモードのとき、 ボタン、 ボタン、または  ボタンを短く押すとアラームが一時停止します。元の警戒状態は変わりません。

7. アラームモード

トリガー警戒状態	1回目の振動検知	2回目の振動検知（15秒以内）	備考
音と光によるアラーム	音と光によるアラームを3回作動	音と光によるアラームを15秒間作動（8サイクル連続で単音アラームモードに移行）	8サイクル連続して振動を検知すると、単音アラーム状態に移行します
サイレントアラーム	アラームなし	アラームなし	

8. LEDの状態

状態	LEDインジケーターの状態
セット状態	1.5秒間隔で4回速く点滅した後、5秒後に消灯します
解除状態	1.5秒間隔で4回速く点滅した後、5秒後に消灯します
ACC ON	5秒間点灯し続けた後、消灯します
アラーム作動時	アラーム音に合わせて点滅します

9. PKE アンロック

- 盗難防止システムがセット状態にあり、イグニッションがOFFまたはLOCK位置にあるとき、ロックハンドルのPKEウェイクアップボタンを押します（または車両の振動が検知されたとき）。これによりPKEシステムが起動し、リモコンを探索します。1〜3メートルの範囲内でリモコンが検知されると、ロックが解除され、アラームも解除されます。
- OFF位置にあるとき：PKEアンロック後、20秒以内にACCがオンにされない場合、システムは自動的に元のセット状態（音と光によるアラームモードまたはサイレントアラームモード）に戻ります。
- LOCK位置にあるとき：PKEアンロック後、15秒以内にLOCK位置から切り替えない場合、システムは自動的に元のセット状態（音と光によるアラームモードまたはサイレントアラームモード）に戻ります。LOCK位置で解除ボタンを2秒以内に2回連続して押しても、システムは完全には解除されません。
- LOCK位置にあるとき：PKEアンロック後、イグニッションをOFF位置に切り替ええると、システムは15秒後に自動的にロックし、サイレントアラームモードに移行します。OFF位置で解除ボタンを2秒以内に2回連続して押すと、システムは完全に解除されます。

10. IMMO 誘導式アンロック

盗難防止システムがセット状態にあり、イグニッションがOFFまたはLOCK位置にあるとき、ロックハンドルのPKEウェイクアップボタンを押します。10秒以内に、リモコンの裏面をIMMOアンテナの検知エリアから4〜7cmの位置に近づけると、システムが自動的にアンロックされます。

IMMO誘導式アンロック後もイグニッションがLOCKまたはOFF位置のままの場合、システムは自動的に元のセット状態（音と光によるアラームモードまたはサイレントアラームモード）に戻ります。

（この機能は、リモコンの電池残量が少なく正常に操作できない場合に、車両をアンロックするために使用できます。）

11. IMMO 誘導式アンロック保護機能（不正操作防止）

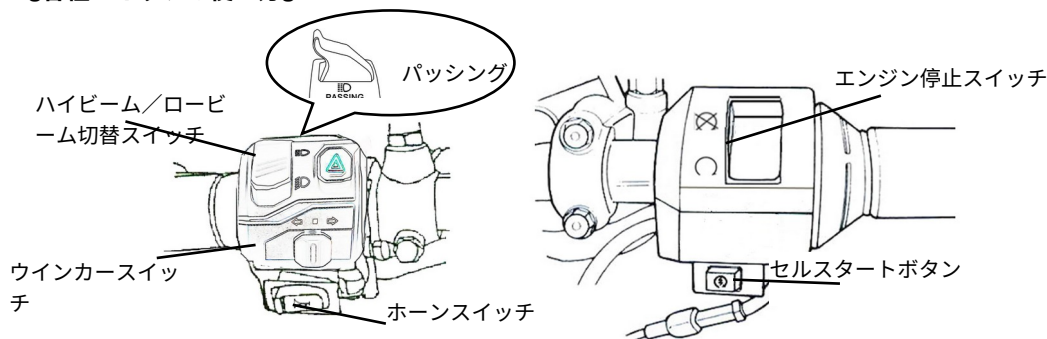
ロックのPKEウェイクアップボタンが15秒以内に10回連続して押された場合（10回目の押下で強制的にロックがかかり、サイレントアラームモードに移行します）、システムはこれを不正操作と判断し、自動的に15秒間PKE保護モードに入ります。

保護モード中は、本体はリモコンに対して通常どおり反応しますが、ロック操作およびPKE機能は無効になります。システムは15秒後に自動的に保護モードを終了し、通常動作に戻ります。

注意：

1. スペアキーを使用する際は、イグニッションを同じ位置にした状態で抜き差ししてください。
2. 車両から離れる際は、メインスイッチが「LOCK」位置になっていることを必ず確認してください。
3. バッテリー容量が8Ah以上であることを確認してください。
4. 長期間車両を使用しない場合は、バッテリーを取り外し、毎月充電してメンテナンスを行ってください。
5. リモコンボタンの有効範囲は20メートル以上です。有効範囲内での誤操作により車両がアンロックされないよう注意してください。
6. リモコンの操作可能距離が10メートル未満になった場合は、内部電池を交換してください。電池の仕様はSYM純正の仕様に適合するものを使用してください。
7. SCNが承認していない電子部品を取り付けしないでください。バッテリーの異常消耗が頻発する原因となります。
8. リモコンを直射日光や雨に直接さらさないでください。
9. 騒音や振動の多い環境でシステムをセットするかどうかは慎重に判断してください。アラームが長時間鳴り続けると車両のバッテリーが消耗するおそれがあります。
10. リモコンの電池は保証の対象外です。
11. ユーザーによる分解や人的過失による損傷は保証の対象外です。
12. リモコンは精密機器です。落下させたり、水に浸したりしないでください。
13. この盗難防止装置は盗難の難易度を高めるものであり、盗難の抑止と所有者への注意喚起の役割を果たすものです。

S各種スイッチの使い方S



・ セルスタートボタン

-  このセルスタートボタンは、エンジンが停止しているときにセルスターターを作動させます。イグニッションスイッチを ON にし、フロントまたはリアのブレーキレバーを握りながらこのボタンを押してエンジンを始動してください。

注記：

- ・本スクーターにはヘッドライト常時点灯機能が搭載されており、イグニッションスイッチを ON にするとポジションランプ、テールランプ、ナンバープレート灯が点灯します。これらのライトを消灯することはできません。
- ・イグニッションスイッチを ON にしたまま、長時間スクーターから離れないでください。

・ パッシングライトボタン：

パッシングライトボタンを押すと、ハイビームインジケーターランプが点灯し、前方車両のドライバーに追い越すことを知らせます。パッシングライトはボタンを離すとすぐに消灯します。

・ ハイビーム／ロービーム切替スイッチ

これはヘッドライトのハイビームとロービームを切り替えるスイッチです。このスイッチを押すことでハイビームとロービームを切り替えます。



これはハイビーム側です。

これはロービーム側です。（市街地走行時はロービームにしてください。）

・ ハザードスイッチ：

-  イグニッションスイッチが「ON」位置にある状態でスイッチを押すと、すべてのウインカーランプとウインカーインジケーターが点滅します。

・ エンジン停止スイッチ：

通常、このスイッチは○位置にしておくことでスクーターが走行できます。緊急時には⊗位置に切り替えてエンジンを停止させてください。

注記：

- ・エンジン停止スイッチでエンジンを停止できますが、すべての電気回路がオフになるわけではありません。通常、エンジン停止スイッチはエンジンを停止させるために使用してください

ホーンスイッチ:

イグニッションスイッチが ON の状態でホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

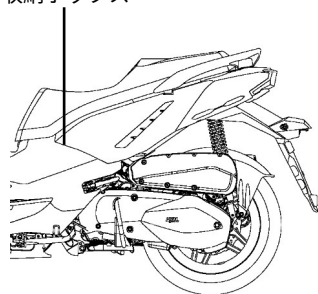
ウインカースイッチ:

ウインカースイッチを左 $\leftarrow$ または右 $\rightarrow$ に切り替えると、対応するウインカーランプが点滅します。点滅を止めるには、スイッチを押し込んでください。

S収納ボックス

- この収納ボックスはシートの下にあります。
- 収納ボックスを使用する際はシートを開けてください。ヘルメットを収納ボックスに収納することができます。ヘルメットの大きさやデザインによっては収納スペースに収まらない場合があります。
- 収納ボックス容量: 35 L。
- 貴重品を収納ボックスに入れないでください。
- シートを押し下げた後、完全にロックされていることを確認してください。
- 洗車の前に貴重品を取り出し、濡れないようにしてください。
- エンジンの熱や高温の影響を受けるため、熱に弱い物を収納ボックスに入れないでください。

収納ボックス



注記:

- 最大積載重量を超えないようにしてください。
- スクーターから離れる前に貴重品を取り出してください。

§ヘルメットホルダー§

- 車両を停止させ、ヘルメットのアゴ紐をフックに掛けてください。

⚠ 注意：

- 走行中はこのフックにヘルメットを掛けしないでください。車両の損傷やヘルメットの保護性能低下の原因となります。

§ブレーキ§

- 不要な急ブレーキは避けてください。
- ブレーキをかける際は、フロントブレーキとリアブレーキを同時に使用してください。
- 長時間ブレーキをかけ続けることは避けてください。ブレーキが過熱し、制動効力が低下するおそれがあります。
- 雨天時など路面が滑りやすいときは、速度を落として早めにブレーキをかけてください。急ブレーキは、スリップや転倒を防ぐため絶対に行わないでください。
- フロントブレーキまたはリアブレーキのみを使用すると、車両が片側に引っ張られ、転倒の危険性が高まります。
- ABSを装備した車両であっても、コーナリング中のブレーキ操作はホイールのスリップを引き起こすことがあります。カーブを曲がる際は、前後ブレーキを軽くかける程度にとどめるか、ブレーキをかけないようにしてください。カーブに入る前に減速してください。

《エンジンブレーキ》

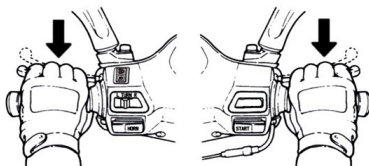
スロットルグリップを元の位置に戻し、エンジンブレーキをかけてください。

長い下り坂や急な坂道を走行する際は、フロントブレーキとリアブレーキを断続的にかける必要があります。

ABS

リアホイール用

フロントホイール用



8. エンジン始動時の重要事項と注意点

注意：

- ・ エンジンを始動する前に、オイルおよび燃料の量が十分であることを確認してください。
- ・ エンジンを始動する際は、センタースタンドをしっかりと地面に立て、車両が急に前進しないようリアブレーキをかけた状態にしてください。

エンジンの始動方法：

1. エンジン停止スイッチが○位置にあることを確認してください。
2. サイドスタンドが上がっていることを確認してください。
3. イグニッションスイッチを「ON」位置に回してください。
4. リアまたはフロントのブレーキレバーを握り、スロットルを完全に閉じた状態でスターターボタンを押してエンジンを始動してください。

[安全のために！ 発進する前は、リアブレーキをかけたままにしてください。]

注意：

- ・ エンジンを始動する前に、オイルおよび燃料の量を確認してください。
- ・ エンジンが始動したら、直ちにスターターボタンを離してください。
- ・ スターターを3～5秒作動させてもエンジンが始動しない場合は、スロットルグリップを少し開けた状態でスターターボタンを押すと始動しやすくなります。
- ・ スターターの損傷を防ぐため、スターターボタンを10秒以上押し続けしないでください。
- ・ 数回試みてもエンジンが始動しない場合は、イグニッションスイッチをオフにし、10秒待ってから再度始動してください。
- ・ エンジン作動中はスターターボタンを押さないでください。
- ・ 排気ガスには有害物質が含まれています。エンジンは風通しの良い場所で始動してください。

エンジンの停止方法：

1. スロットルを完全に閉じます。
2. イグニッションスイッチを「OFF」位置に回します。
3. 平坦で安定した場所にスクーターを止め、サイドスタンドまたはメインスタンドを立てます。
4. ハンドルバーをロックします。

注意：

- ・ 本スクーターは、転倒時に自動的にエンジンを停止させる転倒センサーを装備しています。センサーをリセットするには、イグニッションスイッチを一度オフにしてから再度オンにしないと、エンジンを再始動できません。

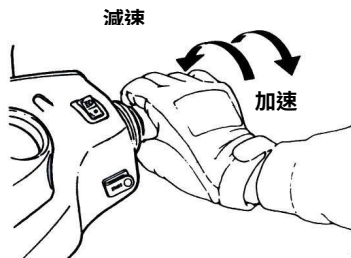
9.発進の最良の方法

- ・ 発進前にウインカーを点灯させ、後方から車両が来ていないことを確認してから発進してください。

Sスロットルグリップの操作S

加速：速度を上げること。坂道を走行する際は、スロットルグリップをゆっくり回し、エンジンの出力を発揮させてください。

減速：速度を落とすこと。



S駐車方法S

- ・ 駐車場に近づくとき：

1. 早めにウインカーを点灯させ、前方、後方、左右の車両に注意しながら、内側の車線に入ってゆっくりと近づいてください。
2. スロットルグリップを元の位置に戻し、あらかじめブレーキをかけてください。（ブレーキをかけるとブレーキランプが点灯し、後続車両の運転者に警告します。）

- ・ 完全に停止したら：

3. ウインカースイッチを元の位置に戻し、イグニッションスイッチキーを「OFF」位置に回してエンジンを停止させてください。
4. エンジンを停止させた後、車両の左側から降車し、交通の妨げにならず地面が平坦な駐車場所を選んで、メインスタンドを立ててください。
5. 左手でハンドルバーを握り、右手でシート前端を押さえるか、シート左下側の駐車用ハンドルを握ってください。
6. 右足でメインスタンドを踏み、しっかりと地面に立ててください。

ご注意：盗難を防ぐため、駐車後はハンドルロックをかけ、キーを抜いてください。

⚠ 注意：

- ・ 交通の妨げにならない安全な場所に駐車してください。

10.乗車前点検・整備

(以下の部品については、部品配置図を参照してください。)

S日常点検S

点検項目		点検のポイント
エンジンオイル		エンジンオイルは十分に入っていますか？
燃料		十分な量がありますか？オクタン価 90 以上ですか？
ブレーキ	フロント	制動状態は良好ですか？ (ブレーキレバーの遊び：10～) 20mm
	リア	制動状態は良好ですか？ (ブレーキレバーの遊び：10～) 20mm
タイヤ	フロント	タイヤ空気圧は正常ですか？ (標準：2.0kgf/cm ²)
	リア	タイヤ空気圧は正常ですか？ (標準：2.5 kgf/cm ²)
ハンドルバー		ハンドルバーに異常な振動や操作の重さはありませんか？
スピードメーター、灯火類、バックミラー		正常に作動していますか？ 灯火は点灯しますか？後方からはっきり見えますか？
主要部品の締め付け状態		ネジやナットに緩みはありませんか？
異常箇所		以前の不具合が残っていませんか？

⚠ 注意：

- 日常点検で問題が見つかった場合は、再度使用する前に問題を解消してください。必要に応じて、「SYM 正規販売店または認定サービス担当者」による点検・修理を受けてください。

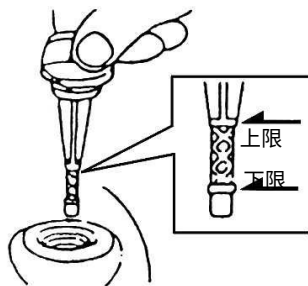
Sエンジンオイルの点検と交換S

・点検：

- 平坦な場所でメインスタンドを使用して車両を支え、エンジン停止後 3～5 分経ってからオイルレベルゲージを抜き取ります。ゲージのオイルを拭き取り、再度ガイドチューブに差し込みます（回転させないでください）。
 - オイルレベルゲージを抜き取り、オイルレベルが上限と下限の間にあることを確認してください。
- オイルが下限を下回っている場合は、上限まで補充してください。（シリンダーやクランクケースなどからの漏れも確認してください。）

オイル交換：

- 最初のオイル交換は1000km 走行後に行い、以降は5000km ごとに交換してください。
- エンジンの最大性能を維持するため、1000km ごとにエンジンオイルの量を点検してください。オイルが不足している場合は、上限まで補充してください。
- エンジンオイル：SL/CF SAE 10W-30 規格以上のエンジンオイルを使用してください。SYM ではMOTUL SCOOTER POWER LE を推奨しています。それ以外を使用した場合、故障は保証の対象となりません。
- オイル容量：1.4 リットル（フィルター交換なしの場合は1.2 リットル）。
- 外気温が 以下の場合は、SAE 5W-40 を使用してください。0°C

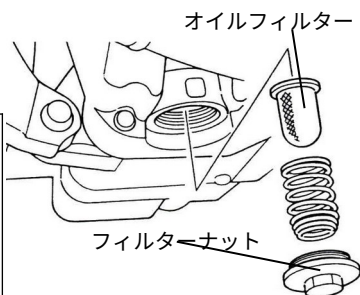


【オイルフィルターの清掃】

オイルフィルターナットを取り外してエレメントを取り出します。ガソリンまたはエアスプレーガンを使用して、エレメントから異物を除去してください。

⚠ 警告：

- 車両が平坦でない場所に停めてある場合や、エンジン停止直後にオイルレベルを確認すると、正確な値が得られません。
- エンジン停止直後は、エンジンとマフラーが高温になっています。エンジンオイルの点検や交換の際は、やけどをしないよう十分注意してください。
- 補充後にオイルレベルが再び下限に近づく場合は、エンジンからの漏れを点検し、再度補充してください。
- オイルを補充する際は、火花や火気に近づけないでください。



オイルの乳化を防ぐ

- 定期的な暖機運転
- 毎回1分間の暖機運転を行う
- 月に1回は最低10km 走行する
- 3ヶ月または5000km でオイルを交換する

S燃料の点検S

- メインスイッチキーを「ON」位置に回し、燃料計の針の位置を確認して、燃料タンク内に十分な燃料があることを確認してください。
- 本車両のエンジンは、オクタン価92以上の無鉛ガソリンを使用するように設計されています。
- 給油の際は、メインスタンドをしっかりと地面に立て、エンジンを停止し、車両に火気を近づけないでください。
- 給油の際は、燃料の上限レベルを超えて注油しないでください。
- 燃料タンクキャップが確実に締められていることを確認してください。

Sトランスミッションオイルの点検と交換S

点検：

- 平坦な場所でメインスタンドを使用して車両を支え、エンジン停止後3～5分待ちます。トランスミッションオイルの注入ボルトを外し、ドレンボルトの下に計量カップを置いてからドレンボルトを外します。オイルを計量カップに流し込み、減少していないか確認してください。（分解時：180cc／交換時：160cc）。

オイル交換：

- エンジンを停止し、平坦な場所でメインスタンドを使用して車両を支えます。注入ボルトとドレンボルトを外し、オイルを排出してください。
- ドレンボルトを取り付けて締め付けます。新しいトランスミッションオイル（160cc）を注入し、注入ボルトを取り付けて締め付けてください。（ボルトが確実に締まっていること、漏れがないことを確認してください。）

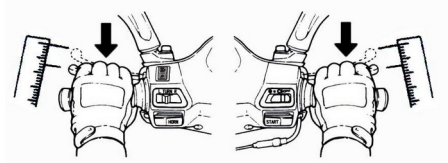
-
- 推奨オイル: MOTUL MOTYL GEAR 75W90

§ブレーキの遊びの点検と調整§

点検：（ブレーキレバーの遊びは、必ずエンジンを停止した状態で点検してください。）

- 前後輪のブレーキレバーおよびペダルの遊び。
- ◆フロントブレーキレバーを点検する場合、その遊び（ブレーキがかかっていない状態から制動が始まるまでのレバーのストローク）は10~であるべきです。レバーを強く握ったときにスポンジのような感触がある場合は異常です。20mm

10~20 mm



§ディスクブレーキの点検§

- ブレーキラインに漏れや損傷がないか目視で確認し、レンチなどの工具を使用してブレーキラインの接続部に緩みがないか点検してください。また、走行中のハンドルバーの振動や部品同士の干渉によってブレーキラインが損傷していないか確認してください。異常が見つかった場合は、SYM 正規販売店で点検・修理を受けてください。



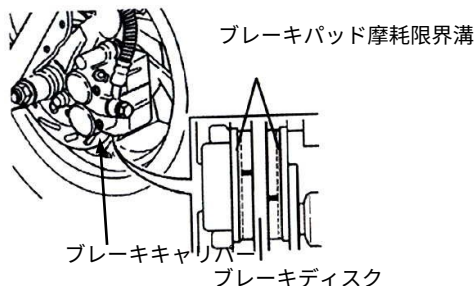
⚠ 注意：

- 乾燥した路面でゆっくりと走行し、フロントブレーキとリアブレーキを操作して不具合がないかを確認し、車両が最適な状態で安全に走行できることを確かめてください。

（ブレーキラインの漏れ、損傷、緩み）

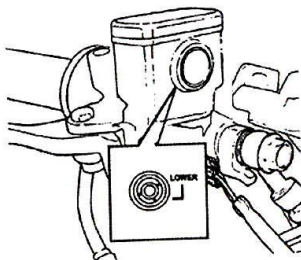
（フロントブレーキパッドの点検）

- ブレーキキャリパーの背面からブレーキを点検してください。ブレーキパッドの摩耗限界がブレーキディスクに達した場合は、新しいパッドに交換してください。



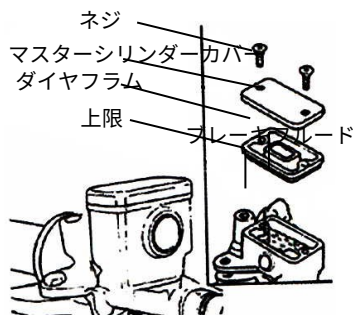
（ブレーキオイルリザーバー内のオイル量の点検）

- 車両を平坦な場所に駐車し、フルードレベルが「LOWER」マークを下回っていないか確認してください。推奨ブレーキフルード：MOTUL BRAKE FLUID DOT4。



(フロントホイールのブレーキフルード補充)

1. ネジを緩め、マスターシリンダーカバーを取り外します。
2. リザーバー周りの異物や汚れを拭き取り、異物がリザーバー内に落ちないように注意してください。
3. ダイヤフラムプレートとダイヤフラムを取り外します。
4. ブレーキフルードを上限レベルまで補充します。
5. ダイヤフラムプレートとダイヤフラムを取り付け、マスターシリンダーカバーを取り付けます。
5. ダイヤフラムの向きに注意し、異物がリザーバー内に落ちないようにしてください。また、マスターシリンダーカバーを確実に締め付けてください。

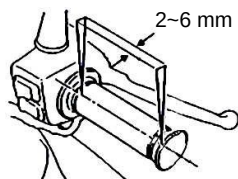


⚠ 注意：

- 化学反応を防ぐため、指定以外のブレーキフルードは使用しないでください。
- ブレーキフルードを補充する際は上限を超えて入れないでください。また、塗装面やプラスチック部品に付着すると損傷の原因となるため、こぼさないよう注意してください。

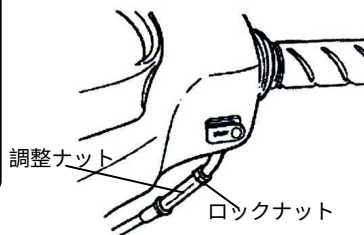
S スロットルグリップの遊び調整 S

- 適正なクリアランスでは、スロットルグリップに2~の回転方向の遊びがあります。6mm
- まずロックナットを緩め、調整ナットを回して調整します。調整が終わったら、ロックナットを確実に締め付けてください。



点検項目：

- スロットルバルブケーブルが全閉位置から全開位置までスムーズに動かか確認してください。
- ハンドルバーを左右に切り、スロットルバルブケーブルが干渉していないか確認してください。
- スロットルバルブケーブルが他のケーブルに妨げられてスムーズに操作できなくなっていないか確認してください。

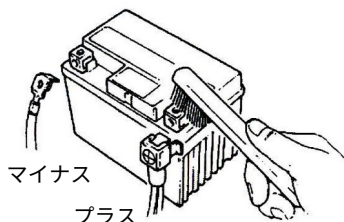


S バッテリーの点検と整備 S

- 本車両はメンテナンスフリー型バッテリーを搭載しているため、電解液の点検や補充を行う必要はありません。異常が見られた場合は、SYM 正規販売店で点検を受けてください。

(バッテリー端子の清掃)

- バッテリー端子を取り外し、汚れや腐食があれば清掃してください。
- バッテリーの取り外し手順は次のとおりです。
イグニッションスイッチキーを「OFF」位置にしてから、まずマイナスケーブルのネジを外してマイナスケーブルを外します。次に、プラスケーブルのネジを外してプラスケーブルを外します。



⚠ 注意:

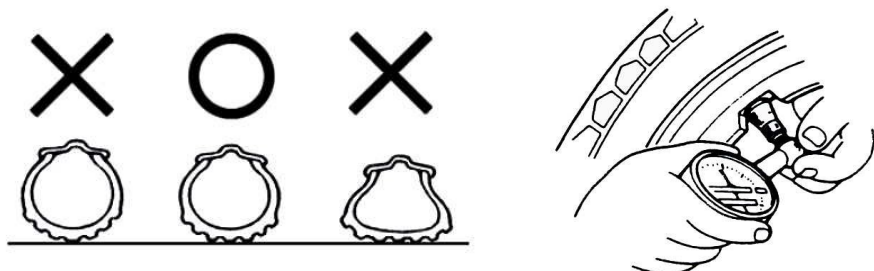
- バッテリー端子が腐食して白い粉が付着している場合は、温水で清掃してください。
- 端子に明らかな腐食が見られる場合は、ケーブルを外してから、スチールブラシまたはサンドペーパーで腐食を除去してください。
- 清掃後にバッテリーケーブルを取り付け、端子に薄くグリースを塗布してください。
- バッテリーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行ってください。

⚠ 注意:

- 本バッテリーは密閉型です。キャップは絶対に外さないでください。
- バッテリーを長期間使用しない場合、漏電や自己放電を防ぐため、バッテリーを車両から取り外し、フル充電した状態で風通しの良い薄暗い場所に保管してください。バッテリーを車両に搭載したままにする場合は、バッテリーのマイナスケーブルを外してください。
- バッテリーを交換する場合は、同一の密閉型バッテリー（メンテナンスフリー）と交換してください。

§タイヤの点検

- タイヤの点検と空気補充は、エンジンを停止した状態で行ってください。
- タイヤの接地形状に異常がある場合は、空気圧ゲージで点検し、規定の空気圧まで補充してください。
- タイヤの空気圧は、タイヤが冷えている状態で空気圧ゲージを使用して点検してください。



標準タイヤ空気圧については仕様諸元を参照してください。

異物（釘や小石など）



ひび割れ・損傷

- タイヤの前面および側面（サイドウォール）にひび割れや損傷がないか目視で確認してください。
- トレッドに釘や小石などの異物が刺さっていないか目視で確認してください。
- 「トレッド摩耗インジケータ」の状態を確認し、トレッド溝の深さが不足していないか点検してください。
- 摩耗インジケータが露出しているタイヤは摩耗限度に達しているため、直ちに交換してください。

⚠ 注意:

- タイヤの空気圧異常、摩耗、ひび割れは、ハンドル操作不能やパンクを引き起こす最も重要な原因です。

§ハンドルバー・フロントショックアブソーバーの点検

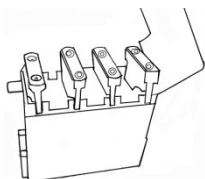
- この点検は、エンジンを停止し、イグニッションスイッチキーを抜いた状態で行ってください。
- フロントショックアブソーバーに損傷がないか目視で確認してください。
- ハンドルバーを上下に操作し、フロントショックアブソーバーの曲がりによる異音がないか確認してください。
- レンチでフロントショックアブソーバーのボルトとナットの締め付け状態を確認してください。
- ハンドルバーを上下・左右・前後に揺すり、ガタつき、過度な抵抗、片側への引っ張りがないか確認してください。
- ブレーキケーブルによってハンドルバーが必要以上に引っ張られていないか確認してください。
- 異常が見つかった場合は、SYM 正規販売店で点検または調整を受けてください。

§ヒューズの点検と交換§

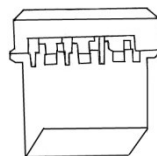
イグニッションスイッチを OFF にし、ヒューズが正常であるか確認してください。切れたヒューズは、規定と同じアンペア数 (30A+25A+20A+15A×2+10A) の新品と交換してください。電気系統や回路の損傷を防ぐため、(30A+25A+20A+15A×2+10A)より大きいアンペア数のヒューズや、真鍮線・鉄線を切れたヒューズの代用として使用することは固く禁止します。

- 収納ボックスを取り外すと、バッテリー付近にヒューズホルダーがあります。
- ヒューズボックスのカバーを開け、ヒューズを引き抜いて、損傷や断線がないか確認してください。
- ヒューズを交換する際は、配線コネクターにしっかりと固定してください。接続が緩んでいると、過熱や損傷の原因となります。
- 電球などの電装部品を交換する際は、規定の仕様に合った部品のみを使用してください。規定外の仕様の部品を使用すると、ヒューズが切れたりバッテリーが過放電したりする恐れがあります。
- 車両を洗浄する際は、ヒューズボックスに直接、またはその周囲に水をかけないでください。
- 新しいヒューズがすぐにまた切れる場合は、再交換する前に故障の原因を確認してください。原因不明でヒューズが切れた場合は、販売店で点検を受けてください。

【取り外し】



【取り付け】



§ウinkerとホーンの点検§

- イグニッションスイッチキーを「ON」位置にしてください。
- 前後左右のウinkerが点滅すること、および警告ブザーが鳴ることを確認してください。
- ウinkerレンズに汚れ、ひび割れ、緩みがないか確認してください。
- ホーンボタンを押して、作動するか確認してください。

△ 注意:

- ウinkerには規定の仕様の電球を使用してください。使用しない場合、ウinkerが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 曲がる、または車線変更する前にウinkerを点灯させ、後続車のドライバーに知らせてください。
- 使用後はウinkerのボタンを押して直ちに消灯してください。消灯しないと、両側のウinkerが点滅したままとなり、後続車のドライバーを混乱させるおそれがあります。

§前照灯と尾灯の点検§

- エンジンを始動するとヘッドライトが自動的に点灯します。ヘッドライトとテールランプが点灯するか確認してください。
- 壁に照射してヘッドライトの明るさと照射方向が正しいか確認してください。
- ヘッドライトカバーに汚れ、ひび割れ、緩みがないか確認してください。

§ブレーキランプの点検§

- イグニッションスイッチキーを「ON」位置にし、前後輪のブレーキレバーを握って、ブレーキランプが点灯するか確認してください。
- ブレーキランプカバーに汚れ、ひび割れ、緩みがないか確認してください。

△ 注意:

- 電気系統の損傷、電球の焼損、バッテリーの放電を防ぐため、規定の仕様の電球のみを使用し、異なる仕様の電球は使用しないでください。
- 過負荷やショートを防ぐため、電装部品を改造したり追加したりしないでください。重大な場合、火災が発生し車両が焼失するおそれがあります。

S燃料漏れの点検S

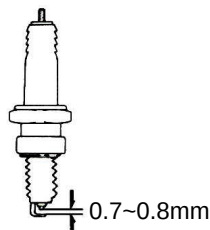
- 燃料タンク、フューエルカップ、燃料ホースに漏れがないか確認してください。

S車体各部の潤滑状態の点検S

- 車体の各可動部に十分な潤滑が施されているか確認してください。（例：センタースタンド、サイドスタンド、ブレーキレバーなどの支点）

Sスパークプラグの点検S

- スパークプラグケーブルのキャップを取り外してください。
- 電極に汚れやカーボン付着がないか確認してください。
- 電極に付着したカーボンをスチールワイヤーで除去し、ガソリンでスパークプラグを清掃してから、布で拭いて乾かしてください。
- 電極を確認し、隙間を 0.7~0.8 mm に調整してください。（シックスゲージで確認してください）
- スパークプラグを手で締められるところまで締めた後、レンチでさらに 1/2~3/4 回転締め付けてください。



警告:

走行後のエンジンは非常に高温になっています。やけどをしないよう注意してください。

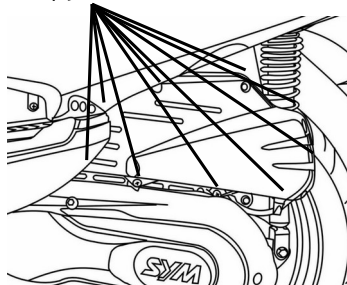
※本車両のエンジン仕様に適合し、メーカーが推奨するスパークプラグのみを使用してください。（仕様諸元を参照してください。）

Sエアクリーナーの点検S

《分解手順》

- エアクリーナーカバーの取り付けネジを外します。
- エアクリーナーカバーを取り外し、フィルターエレメントを取り外します。
- エレメントを取り出して清掃します。（整備スケジュールを参照してください。）

ネジ



《分解手順》

- エアクリーナーの組み付けは、分解と逆の手順で行ってください。

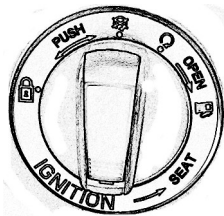


注意:

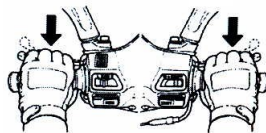
- ほこりの堆積は、出力の低下や燃費の悪化を引き起こす主な原因の一つです。
- 埃の多い道路を頻繁に走行する場合は、エンジンの寿命を延ばすため、エアクリーナーエレメントの交換頻度を上げてください。
- エアクリーナーの取り付けが不適切な場合、ほこりがシリンダー内に吸い込まれ、早期摩耗や出力の低下、エンジン寿命の短縮を招くおそれがあります。
- 車両を洗浄する際は、エアクリーナーを濡らさないよう注意してください。濡れるとエンジンが始動しにくくなります。

11. 異常や不具合が発生した場合

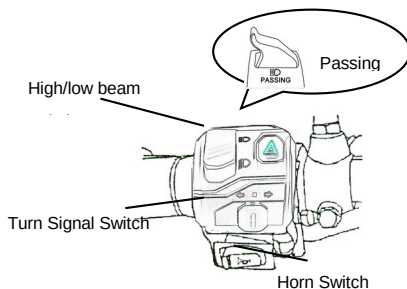
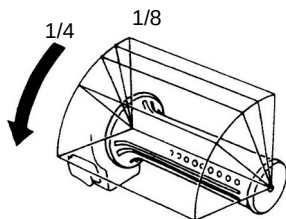
§ エンジンが始動しない場合の診断§



リアホイール用 フロントホイール用



- (1). イグニッションスイッチキーは「ON」位置になっていませんか？
- (2). 燃料タンクに十分な燃料がありますか？
- (3). スタートボタンを押す際に、前輪または後輪のブレーキがかかっていますか？



- (4). スタートボタンを押しながらスロットルグリップを回していませんか？
- (5). イグニッションスイッチキーを「ON」位置にしてホーンボタンを押してください。ホーンが鳴らない場合、ヒューズが切れている可能性があります。

【上記の項目に問題がなく、それでもエンジンが始動しない場合は、直ちにSYM正規販売店で点検を受けてください。】

12. エンジン燃料についての推奨事項

- 本車両はオクタン価 92 以上の無鉛ガソリンを使用するよう設計されています。

13. トランスミッションオイル

- 推奨オイル：SAE 85W-90 以上のギヤオイル。

14. スクーターのお手入れ

S洗車S

洗車前に、エンジン、マフラー、ブレーキなどの高温部分を十分に冷ましてください。マフラーの排気口はカバーで覆うことをお勧めします。

- ホースの水で車両をすすぎ、汚れを落としてください。
- バケツにスクーターまたは自動車用の中性洗剤と水を混ぜ、スポンジを使って車両を洗ってください。
- ラジエーターは低圧の水流で清掃してください。
- 洗車後は、きれいな水で車両を十分にすすぎ、洗剤の残りを落としてください。
- エアガンで水を吹き飛ばし、清潔な柔らかい布で車両を拭き上げてください。
- 低速で慎重に走行しながらブレーキを数回かけ、ブレーキを乾燥させてください。

注記：

- ラジエーターに高圧の水をかけないでください。
- 融雪剤がまかれた道路を走行した後は、できるだけ早く車両を洗車してください。
- マット仕上げのプラスチック部品が装備されている場合は、特に注意してください。マット仕上げの部品にワックスを使用しないでください。

ウインドスクリーンは、中性洗剤を薄めた水で清掃してください。清掃後はよくすすぎ、清潔な柔らかい布で拭いてください。傷や汚れが取れず透明度が低下した場合は、SYM 正規販売店でウインドスクリーンを交換してもらってください。

⚠ 警告：

- 事故を防ぐため、走行中にウインドスクリーンを清掃しないでください。
- ウインドスクリーンが破損または傷ついた状態で車両を運転すると、運転者の前方視界が悪化します。前方視界の低下は危険であり、重大な事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意：

- バッテリー液などの腐食性の薬品は、ウインドスクリーンを損傷させるおそれがあります。

S保管S

車両を長期間保管する場合は、次の手順を行ってください。

- 車両を十分に清掃してください。
- エンジンを数分間運転してから停止し、エンジンオイルを抜いてください。
- 新しいエンジンオイルを補充してください。
- 燃料タンクを満タンにし、可能であれば燃料安定剤を添加して、燃料タンクの錆や燃料の劣化を防いでください。
- タイヤの空気圧を約 20% 減らし、車両の前後輪を地面から浮かせた状態にしてください。
- 錆を防ぐため、塗装されていない金属面すべてに薄くオイルを塗ってください。
- すべてのケーブルに注油してください。
- バッテリーを取り外し、フル充電してください。涼しく乾燥した場所に保管し、月に一度充電してください。寒い時期は、バッテリーが十分に充電されていることを確認してください。
- マフラーにビニール袋をかぶせ、湿気が入らないようにしてください。
- スクーター全体をカバーで覆い、ほこりや汚れから保護してください。

15. §アンチロック・ブレーキ・システム§

ABS は、直進走行中に急ブレーキをかけた際にホイールがロックするのを防ぐために設計されています。ABS はブレーキ力を自動的に調整します。グリップ力とブレーキ力を断続的に発生させることで、ホイールのロックを防ぎ、停止時の安定したステアリング操作を可能にします。

ブレーキの操作方法は、従来のオートバイと同じです。フロントブレーキにはブレーキレバー、リアブレーキにはブレーキペダルを使用します。

ABS はホイールのロックを防ぐことで停止時の安定性を高めますが、以下の特性に注意してください。

- ABS は、路面状況の悪化や判断ミス、ブレーキの誤った操作を補うことはできません。ABS を装備していないオートバイと同様の注意を払う必要があります。
- ABS は制動距離を短縮するために設計されたものではありません。路面が緩い場所、凹凸のある路面、下り坂などでは、ABS 装備車の制動距離が、ABS を装備していない同等のオートバイよりも長くなる場合があります。このような場所では特に注意してください。
- ABS は直進時のブレーキによるホイールロックを防止しますが、コーナリング中のブレーキ操作によって発生するホイールスリップを制御することはできません。コーナーを曲がるときは、前後ブレーキを軽くかけるだけにするか、まったくブレーキをかけないようにしてください。コーナーに入る前に減速してください。
- ABS に内蔵されたコンピューターは、車速とホイール速度を比較しています。推奨されていないタイヤを使用すると、ホイール速度に影響を与え、コンピューターの誤判断を招き、制動距離が延びるおそれがあります。

注意：

ABS は、ライダーをあらゆる危険から保護できるものではなく、安全な運転操作に代わるものでもありません。ABS システムの作動方法とその限界について理解しておいてください。天候、路面状況、交通状況に応じた適切な速度と方法で走行することは、ライダー自身の責任です。

§TCS システム§

TCS はコントロールユニットを使用して前輪と後輪の速度を検出します。オートバイの発進時や加速時に、後輪と前輪の速度差が大きすぎると検出された場合、コントロールユニットは直ちに駆動力が過大であると判断し、点火タイミングの調整または燃料の遮断によってエンジンのトルク出力を即座に低下させ、駆動力を減少させることで、後輪のスリップ率を低減します。

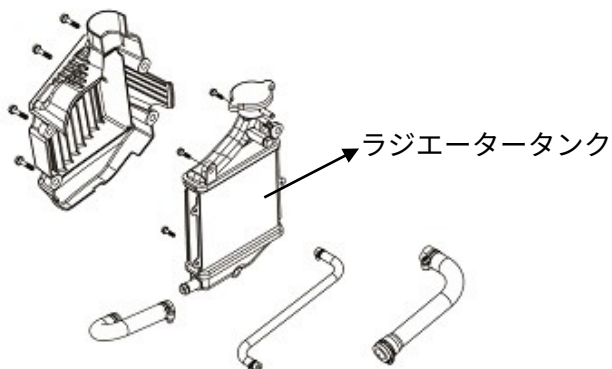
TCS (トラクションコントロールシステム) は、オートバイの発進時および加速時における後輪のスリップを防止または軽減するようエンジンの出力トルクを制御し、オートバイの走行方向の安定性を維持することを目的としています。

ライダーによるオートバイの制御とは、本質的にはタイヤと路面の間に働く力を制御することですが、ホイールと路面の間の力は、タイヤと路面の間の粘着特性によって制限されます。オートバイの発進時や加速時など、タイヤと路面の間の力が粘着限界に近づく、または達すると、雪道、凍結路、ぬかるんだ濡れた路面のように路面の摩擦係数が小さい場合、オートバイの駆動トルクが往々にしてタイヤと路面の間の粘着限界を超え、後輪の過度なスリップを引き起こします。これはオートバイの走行性能を低下させるだけでなく、タイヤの摩耗を増加させ、伝達系統およびライダーへの負荷を増大させ、燃料消費量を増加させるとともに、オートバイの操縦性、安定性、安全性を損ないます。したがって、オートバイのタイヤと路面の間に働く力を適切に調整することは、オートバイの能動的安全性を高める上で大きな意義があります。

16.冷却システムの点検

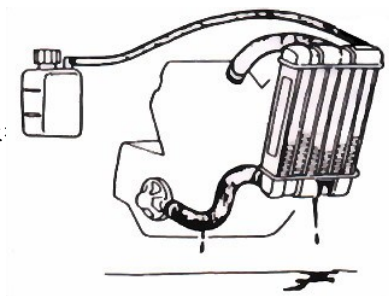
(冷却システムの漏れを点検する)

1. 平坦な場所でメインスタンドを使用して車両を支えます。
2. ラジエーターと配管に漏れがないか点検します。
3. 車両を駐車した地面に水滴が垂れていないか確認します。



冷却水の補充

- 車両を平坦な場所で、直立した状態に支えます。
- タンクカバーを開けます
- リザーブタンクのカバーを開け、規定量まで冷却水:
- 冷却水の量が少なすぎる場合は、冷却システムに異常がある可能性があります。
- ラジエーターの錆びを防ぐため、銘柄不明の冷却水は使用しないでください



17・定期点検整備スケジュール

項目	点検項目	整備走行距離	1000KM	5000km ごと	10000km ごと	15000km ごと
		点検整備間隔	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月	1 年
1	エアクリーナーエレメント*		I	R		
2	オイルフィルター（メッシュフィルター）		I	10,000km ごとに清掃		
3	エンジンオイル		R	R		
4	タイヤ、空気圧		I	I		
5	バッテリー		I	I		
6	スパークプラグ		I	I		R
7	スロットルバルブのカーボン除去清掃		I		I	
8	ステアリングベアリングおよびハンドル		I	I		
9	トランスミッションの漏れを点検		I	I		
10	クランクケースの漏れを点検		I	I		
11	トランスミッションオイル		R	R		
12	ブレーキフルード		I	30,000km ごとに交換		
13	CVT／ドライブベルト／ローラー／ドライブプーリー		I/C: 5000km ごと、R: 20000km ごと			
14	燃料タンクチューブおよび燃料フィルター		I	I		
15	スロットルバルブの作動およびケーブル		I	I		
16	ボルトおよびナット		I	I		
17	カムチェーン		I	I		
18	バルブクリアランス		I		I	
19	ショックアブソーバー		I		I	
20	フロント／リアサスペンション		I		I	
21	メインスタンド／サイドスタンド		I/L		I/L	
22	クランクケースブローバイシステム（PCV）		I		C	
23	冷却水		I			R
24	冷却ファン、チューブ		I	I		
25	クラッチ、クラッチアウター、ドリブンプーリー				C	
26	ブレーキ機構／ブレーキライニング（パッド）**		I	I		
27	灯火類、スイッチ類および電気システム		I	I		

記号：I～点検、清掃、調整 R～交換

C～清掃（必要に応じて交換） L～注油

*ほこりの多い環境では、5000km ごとにフィルターを交換してください。フィルターの清掃に圧縮空気を使用しないでください。必要に応じて交換してください。

**必要に応じて、10,000km ごとにブレーキキャリパーおよびマスターシリンダー内部部品を清掃・交換してください。

ブレーキフルードは2年ごと、または30,000kmごとに交換してください。

ブレーキホースは4年ごと、または60,000kmごとに交換してください。

☆上記の点検整備は、走行距離または経過期間のいずれかが規定の基準に達した時点で実施してください。

スクーターに関して問題や疑問が生じた場合は、SYM正規販売店にご連絡ください
点検整備スケジュールにかかわらず。

☆スクーターを最適な状態に保つため、SYM正規販売店またはフランチャイズ販売店による定期点検整備を受けてください。

☆高速走行や長距離走行が多い、ほこりの多い環境で使用するなどの場合は、必要に応じてより頻繁に点検整備を行ってください。

18・諸元

項目 \ 仕様	型式	TEA25T1CN-EU
全長		2185mm±20mm/2285mm±20mm (トランクボックス装着時)
全幅		810mm±20mm
全高		1325mm±20mm
ホイールベース		1510mm±10mm
シート高		790 mm±10mm
車両重量		200±6kg
最大許容重量		353±6kg (前: 125±4kg 後: 228±4kg)
種類		4 ストロークエンジン
使用燃料		無鉛ガソリン
圧縮比		10.7±0.2:1
最高出力		18.1KW/8000rpm
最大トルク		24.0Nm/6000rpm
始動方式		セル式 (電気始動)
ECU/キャブレター形式		M4B
Venturer		Continental
変速方式		C.V.T.
フロントタイヤ		120/70-15
リアタイヤ		140/70-14
ホイール		アルミニウム
タイヤ空気圧		フロント: 標準 2.0kgf/cm ² 、 リア: 標準 2.5kgf/cm ²
フロントブレーキ		ディスク式 (Ø 260 mm)
リアブレーキ		ディスク式 (Ø 240 mm)
ヘッドライト ロービーム/ハイビーム		12V 44W/ 12V 22W (LED)
ポジションランプ		12V 6.5W (LED)
テールランプ/ストップランプ		12V 4.2W /12V 6.72W(LED)
フロントウインカー		12V 2.4W *2(LED)
リアウインカー		12V 2W *2(LED)
ナンバー灯		12V 5W
エンジンオイル容量		1.4L (交換時 1.2L)
ミッションオイル容量		180cc (交換時 160cc)
燃料タンク容量		16 ⁰ ₋₁ L
ヒューズ		30A+25A+20A+15A*2+10A
スパークプラグ		CR8E
Battery 容量		YTX12(12V 12Ah)
エアクリーナー		紙製 (ペーパー式)

注意：仕様および装備は予告なく変更される場合があります。

修理・整備記録表

型式: _____ 車台番号 (VIN): _____

お客様名: _____ 電話番号: _____

[illegible]

販売店署名:

整備担当署名: